

水の流れを楽しむ 名古屋市立島田第一保育園（愛知県名古屋市）

【4歳児】

【ねらい】・友だちと一緒に泥んこ遊びを楽しむ。

- ・水たまりを作って遊ぶ。
- ・水が流れていくおもしろさに興味をもつ。

第1日目 ・水着で砂場遊びができるように誘い、大スコップを全て出す。

次々に穴を掘り出す。

子「ここは川！」

子「ここも川！」

子「川って海に流れていくんだよ」

子「違うよー」 子「そうだよ」

子「川は池に流れてプール(ダム?)へいくんだよ」

子「えっー、川は海に流れていくよ。見たもん！」

子「そんなの違うわ！」

子「海から川に流れていくんだわ！」

しばらく掘り続けてから、砂場の隅に雨どいを立てかけ、ホースで少しずつ水を流して、「お山に雨が降りましたー、後から後から降ってきて、ちよろちよろ小川ができましたー」と保育者と数名の子が口ずさむ。

流れができ始めるとそれに沿ったり、別の流れを作ったり、池や海につながったり、それぞれに掘り進める。ホースからの少しずつの流れは待ちきれず、手洗い場からどんどん水を運び、海や池の水を溜めるのに夢中の子もいる。

子「つながったー！」とあちこちで歓声をあげる。

保「雨がやんだからね」とホースの水を止める。

子 海や池のくぼみで足をバシャバシャさせてはしゃぐ。

帰りの会で、砂場遊びを話題にする。

保「砂場で何を作った？」

子「海!」「川!」

保「水はどこから流れてきた？」

子「山!」

保「そうだね。高い山からきたね。(歌『あめふりくまのこ』を歌う。)

川を見たことある人？」

子「あるー」(半数位)

「丸い川みたー」



第2日目 ・保育室で話をする

保「この前はバケツの水を運んで海を作ったけど、本当の海はどんなのかな？」

子「(壁面の海を指し)K先生が作ったー」少し考え込む。

子「川の水が流れてきたー！」

雨どいを見せながら

保「今日は山から流れてくる水だけで作ろうか？」

子「うん！」

砂場へ直行し、すぐにあちこち掘り始める。

前回より川を作り出す子が多い。

水を流し始めると、その流れに注目する子、無関係に掘る子と様々な姿。子「きたきた！」

掘った川へ水が流れて行くと、

子「流れた、流れた！」

砂がつまって水の流れが止まっている。

保「ここってどうしたら流れるのかなあ？」

子「穴を掘ると、そっちの方に水が流れていくんだよ。またこっちを掘るとこっちにくる」

海(大きいくぼみ)から離れた所で小さく深い穴をひたすら掘っていたS君。

S児「ここに水が流れるようにしたい!!!」

(実際は難しい場所)

N児「ここ(海)が一番

低いから、

こっちを

低い方に

今までどろんこあそびに抵抗のあったS児も夢中で遊んでいる

すればいいんだよ(普段と全く違う表情で熱っぽく話しかけ、一生懸命掘り出す)

保育士も手伝い始めると自分ではどうしていいかわからなかったS児も「ぼくがやる！」

そして、海から穴に水が流れ込み「やったー！」

帰りの会で、「今日は何を作った？」と話題にする。

子「海!」「川!」

保「水はどこから流れてきた？」

子「高い山!」「でも山ってそんなに水がないよ!」「たくさん流れてないよ。」

保「初めはね。ちよろちよろって流れているんだよ。あっちの山からもこっちの山からも、ちよろちよろ、それがジャー、ザーってどんどん大きな川になっていくんだよ」

みんなそれは真剣に聞き入っている

保「じゃあ、最後はどこに流れていくの？」

子(声を揃えて)「海!」

子「お風呂の水も海にいく!」

保「そうだね」

考 察

水を流したり、穴を掘ったり、水を溜めたりして遊ぶことはどの子も大好き。でも実際の池、海、川に触れたことのある子は少なく、言葉とは結びつかない子が多い。興味がなくままごとを始める子も多い。大人からの知識としての言葉ではなくイメージさせるのはむずかしいが、これをきっかけに興味をもてると良い。

夏休みに近場でも良いので色々な場所に行く機会がもてるように働きかけたい。(クラス便りで呼びかけ)

考 察

前回よりどの子も川作りに夢中になりとても集中して遊んでいた。イメージの持ち方には差があり、同じ思いで作り上げていく雰囲気ではないが、それぞれのイメージで遊びを進めて楽しんでいた。数人で思いが一緒になると、より面白さも増していく。“こうしたい”という思いが一致すると今までになかった友だち関係も広がっていく。高低を理解して言葉で伝えられる子がいることにも驚いた。

第3日目 ・プール遊びの後、砂場遊びに誘いかける。

子「この前みたいに水流したい！」

保「いいよ。そうしよう」

雨どいを用意するが、すぐには水を流さず様子を見守る。

数人がすぐに雨どいの下から川を作りだす。

(その中の一人は前回、初めてどろんこ遊びに参加したS君) 前回、池から湖を作ったあたりでは「この前みたいにやろうよ」と友だちに声をかける子がいる。

誰も水を流して欲しいとは言わず、あちこちを掘り進める。そしてしばらくしてから

子「もう水を流そうよ」(川を作っていた子が口々に)

子「まだだめー」(海をひたすら掘っている子)

子「流したいー」子「まだー」と何度かやりとり。

保「もういいかい」と数回やりとりしてから

「もう流すねー」と水を流し始める。

子「きたきた！」「やったー！」「おー！」「早いー」

「海になったー」「こんな方へきたー」と歓声をあげる。

それぞれに掘って楽しんでいる。

子「ここに流したい！」

子「こっちに流して！」

と声があがる。

子「やったるわ！」

子「まかしとき！」

子「俺が先にやるって言ったんだ」

と、喧嘩になりそうなほど張り切って掘っていく。



考 察

前回より保育者主導ではなく、どんどんイメージを広げ友達とのかかわりも活発になってきた。「こうしたい！」という思いもはっきり主張し、楽しんでいる。

保育士主導の活動の時にはわからなかった個々の意欲、集中力、性格など見えてくるものが多かった。

どろんこ遊びに抵抗のある子への誘いかけも、(様子を見て)時には少し強めの誘いかけも重要だと3回の実践を通じた表情の変化から実感した。

みどころ

保育者は子どもたちと砂場で「川・山・海」などを作る遊びを一緒に楽しんだり、その遊びを保育室で振り返って話し合ったりしています。その中で保育者が「水はどう流れるのか?」「水はどこに行くのか?」「海の水はどこから来るのか?」という投げかけをすることで、砂場でイメージして作っているものや実際の水の流れへの関心を引き出し、意識するやりとりが見られるようになっていきます。また、作りたいものや水の流れのイメージが共通になるようなやりとりをしたり、水を流すタイミングを相談して流すことで思うようになった満足感を共有したりしています。科学する心の育ちにつながる体験を読み取ることができます。